

定例会のあらまし


平成28年9月（第3回）定例会を、9月2日から16日までの15日間にわたり開催しました。

今期定例会において、報告案件、一般会計補正予算、人事案件等の議案が提案され、赤穂市国民健康保険事業特別会計補正予算など5議案については、全会一致で可決、同意し、一般会計補正予算の1議案については賛成多数で可決しました。

また、平成27年度の決算認定及び平成27年度赤穂市水道事業会計未処分剰余金の処分については、決算特別委員会を設置し、閉会中の継続審査を行うこととしました。

**市民病院11年連続赤字で進む
第二期基本構想の今後について**

釣 昭彦 議員




問 第二期基本構想後にはICUなど集中治療室・人工透析室の増床やPET-CTの高額医療機器を設置し、30年度黒字を見込んでいるが、根拠、要因は何か。また、入院での病床利用率が現在、65.8%と低いが、収益率アップをどのように考えているか。看護師体制の7対1を継続する対策は何か。



**市民病院の今後の透析患者の
対応について**

土遠 孝昌 議員



問 市民病院での人工透析患者の対応は午前の部と午後の部として2回に分けて対応していますが、仕事に従事されている現役世代の患者は、現状の対応では自宅にて行うか、夜間対応している他の病院で治療しています。人工透析患者の利便性を図るために夜間の透析治療が出来るようにしてはどうか。



市政の課題 将来の展望を ただ 質す



9月15日（6名）、16日（4名）に、計10名が登壇し、市政の課題や将来展望に対する考え方について一般質問を行いました。

答 第二期基本構想の今後については、入院収益では、ICUなど集中治療室増床分、外来収益では、外来化学療法室や人工透析室の増床分、またPET-CTの検査料を別途見込むことにより収益が増加し、平成30年度に黒字経営に転換できる計画としています。病床利用率は平成29年度以降、75.8%で見込んでおり、今後病院事業収益を上げる対策としては、長年の懸案であった「7対1看護体制」を取得しました。今後も大学・高校・看護学校等を訪問するなど看護師の確保に努める一方、常勤医師不在の診療科の解消に取り組むなど、経営の安定に努めるほか、地域包括ケア病棟の12月開設も準備しています。

その他の質問事項
● 学校教育について 他

答 他の民間病院における夜間透析の状況については、把握しておりませんが、市民病院では、人工透析を午前と午後の1日2回行っています。夜間透析を実施するためには、医師・看護師等のスタッフの増員が必要であり、現時点では困難であります。

その他の質問事項
● 市民病院の医師・看護師の確保について 他